

東 亞 天 文 協 會

—(觀 測 部 月 報)—

流 星 課 月 例 報 告 (71)

1936年度の観測總數

昨年度の流星観測の集計は下記の様である。

観 測 人 員 17名 観 測 回 數 363

観測時間數 46687分=778時間

観測流星數 10287個

この結果は前年の1935年度に比すると、時間數に於て1703分、流星個數に於て2406個を増加してゐる。この數は獅子座流星の多かつた1933年及び1934年を除いては最も多い。観測者中最も多いのは竹原の去井耕一氏で時間數23220分、流星數5349個であつて何れも總數の半を占めてゐるのは偉である。(上表には火球の観測は省いてある)

以上の集計を月別に統計すれば次の様になる。

月	観測者數	回數	時間數	流星數
1月	5	13	1083	223
2月	3	12	1534	173
3月	4	10	895	96
4月	9	34	3605	359
5月	5	25	1962	203
6月	5	21	2135	263
7月	9	45	6413	1458
8月	7	50	7838	2055
9月	7	42	6465	1142
10月	9	58	7229	2524
11月	7	35	5510	1126
12月	5	18	2117	665

10月に最多であるのはオリオン群の爲であり、8月及び7月は例によつてペルセ以下の夏の流星群が見られてゐる爲であらう。上半期は例年乍ら甚だ少い。

1月以降の觀測概況

本年に入つての流星觀測は残念乍ら至つて不振である。主なる觀測者は吉井耕一氏、實方雅雄氏、佐野英生氏、大石辰次氏及び筆者であるが、この外に火球の觀測が若干ある。1月の四分儀の觀測は失敗、4月の琴座群は吉井氏が僅か認めてゐるにすぎぬ。5月の水瓶群は月明による惡條件の爲、はじめから期待できなかつたが吉井氏は4日、6日、8日、9日、10日の5夜に計12個を見られた。(小横孝二郎)

木星に依る恒星の掩蔽

本月4日に木星が恒星を掩蔽する。之れの見えるのは東亞細亞、オーストラリア、ニュージーランドであり、その恒星は B. D. -22°5510 で光度8.0等級である。地球中心から見た兩星の合は7月4日23時38分である。その時の兩星の赤經は 19時42分50.90秒であり、赤緯は木星が、 $21^{\circ}40'39''.0$ 、恒星は $-21^{\circ}40'24''.9$ 、木星の極視直徑は $44''.2$ である。又木星の光度は-2.3等級で逆行中であるが、1時間に赤經で僅かに19.5秒(角)程しか動かないので、豫報も3~4分の程度であやしいが、大體次の通りである。

潜 入	7月4日22時32分	位置角	298度(北より)
出 現	7月5日 1時26分	”	39度(”)

遊 星 面 課 月 報 (4月)

火星の接近につれて見取圖は増加して行くが、新觀測者の現れないのはどうした事か。只僅かに1人、静岡縣吉永村の大石長次氏が5糎屈折鏡による見取圖を御送り下さつてゐるのみ、10~15糎口径が随分有る筈だが。

火星は其後順調に季節的變化を呈しつつ、今度は日1日遠ざかつて行く、その後には王者木星が巨光を放ち乍ら昇天して来る。吾々は火星を射落した餘

勢を馳つて木星に對さねばならない。木星は8種でも相當の仕事がなされるのだから、遠慮せずどしどし報告を送つて頂き度い。

終りに5月末迄の火星見取圖數は、渡邊氏70枚、前田氏20枚、大石氏2枚、木邊課長10枚、伊達幹事23枚で、1935年度に比し、質、量共に優秀な記録が集まつた事は喜ばしい。(E. D)

火星觀測表 (日本中央標準時 9^h の値)

月日	視直徑	中央 經度	中央 緯度	歟度	火星 日附	月日	徑直視	中央 經度	中央 緯度	歟度	火星 日附
7月3日	"	177.52			10月10日	19		28.89			26
4	15.52	168.32	+16.88	0.92	11	20	13.76	19.51	+15.94	0.89	27
5		159.11			12	21		10.12			28
6	15.29	149.88	16.83	0.91	13	22	13.55	0.72	15.75	0.88	29
7		140.64			14	23		351.31			29
8	15.06	131.39	16.77	0.91	15	24	13.35	341.90	15.53	0.88	30
9		122.13			16	25		332.47			31
10	14.84	112.86	16.68	0.90	17	26	13.15	323.04	15.29	0.87	32
11		103.57			18	27		313.60			33
12	14.62	94.27	16.57	0.90	19	28	12.95	304.15	15.04	0.87	34
13		84.96			20	29		294.69			35
14	14.39	75.64	16.44	0.89	21	30	12.76	285.23	14.77	0.87	36
15		66.31			22	31		275.76			37
16	14.18	56.97	16.30	0.89	23	8月 1	12.58	266.28	14.48	0.87	38
17		47.62			24	2		256.79			39
18	13.97	38.26	16.13	0.89	25	3	12.40	247.30	14.18	0.85	40

猶ほ、7月13日7^hに火星は北半球の秋分となる(火星日附は10月20日)

黄道光課報告 (1937年4月分)

課長 荒木健兒

4月の觀測を送られた諸君は静岡縣の大石、石上兩君、岐阜縣の廣瀬君、福井縣の佐野君、兵庫縣の足立君、廣島縣の淺野、本田兩君——以上7名で、觀測地は本州中西部に密集してゐる。

觀測が行はれたのは1, 3, 5, 6, 8, 10, 27, 29の8日だけで、すべて宵の西天である。天候にも十分恵まれなかつたが、4月の西天は銀河があるので、

不成績は例年の通りである。

明るさは略3月位といへば稍強い方で、たしかに異数である。中心線的位置から判じても、頂點は確かに北偏である。

濠洲との協同觀測は3月から引きつづき4月4日まで、西天20時であつたが不成績、東天は見られてゐない。

29日の薄明の終る少し前、佐野君が牡牛座の黃道附近に南北の長さ副20度の細い虹狀の光を見、而もこれが東方に約15度移動したのを見た。何かわからない。

對日照の國際協同觀測を計畫し、本田君が22時を選んで3、5、10日の3回、中心點の位置を主眼として觀測した。反太陽點より5~7度北方に偏し、全形は一定のものではなく、不規則光斑と混じてゐるらしい。

器 械 課 よ り

事務の煩雜の爲めに、鍍銀及び當課の手を通じて望遠鏡及部分品の取次を一時中止致します。但し、望遠鏡に關する種々の御相談や御質問に對しては、従前通りに致します。

計 算 者 を 求 む

上田教授の所にて計算者を求めてをられる。その方面に興味ある人は履歴書を提出せられたい、但し、給與の點はほんのお小遣ひ程度のものが支給せられるとのことである。

(御希望の方は京都帝大理學部天文學教室、上田教授宛申出のこと)

夏 期 大 學 講 習 會

本年の夏期講習會は8月1日より、帝大にて開催される。天文學に關しては、科目及講師は次の通りである。

ユークリッド空間と宇宙構造

理學博士 荒木俊馬助教授

尙之れと共に聴講出来る科目は、現代哲學の動向、日本議會發達史、醱酵化學概論等がある。

申込期日は7月20日まで、聴講料2圓、聴講資格制限なし。詳細は京都帝國大學講習會宛御問合せの事。

太陽課 黒點相對數報告 (1937年5月)

觀測者(觀測地)	齋藤(臺灣臺中)	後藤(佐賀市松原町)	久保(高知高等學校)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	改發(神戸市關守町)	野口(大阪市北區)	三宅(大阪府豊中市)	木邊(滋賀縣中里村)	正村(岐阜市溝旗町)	杓掛(長野縣青木村)	清水(静岡縣島田町)	大石(静岡縣吉永村)	淺居(横濱保土谷區)	森久保(横濱市中區)	堀田(横濱市鶴見區)	水谷(横濱市神奈川區)	御供(東京市立一中)	千葉(岩手縣水澤町)
鏡徑耗	50	60	75	80	150	76	50	75	25	102	100	55	58	45	38	32	48	50
倍率	50	80	53	70	68	50	88	60	48	75	73	64	60	60	50	40	50	50
1	欠	雨	曇	雨	一	曇	曇	雨	曇	曇	45	曇	61	55	51	45	一	曇
2	”	71	欠	曇	一	78	54	63	51	雨	雨	49	雨	51	雨	45	欠	雨
3	曇	54	82	102	63	63	87	52	27	欠	63	46	欠	54	47	35	一	曇
4	曇	51	98	93	88	59	53	52	51	欠	82	48	”	68	42	25	58	”
5	曇	69	78	欠	一	68	61	80	66	曇	欠	67	”	83	54	24	欠	”
6	47	52	曇	72	一	40	欠	曇	48	63	69	74	曇	曇	欠	曇	40	”
7	曇	曇	”	”	一	曇	”	曇	”	曇	曇	64	曇	欠	曇	24	曇	45
8	曇	38	59	70	53	35	”	63	28	41	53	64	”	欠	35	24	欠	41
9	44	69	120	137	83	67	58	92	62	67	92	72	75	”	42	35	欠	68
10	欠	100	131	121	156	100	54	130	106	122	108	107	70	125	65	47	86	68
11	”	118	170	184	177	110	96	170	115	153	147	147	欠	164	93	45	116	81
12	111	109	132	136	一	104	欠	133	107	曇	118	126	”	曇	87	57	一	84
13	曇	”	曇	117	一	97	”	117	曇	109	156	120	”	131	89	欠	103	92
14	”	103	177	曇	一	曇	欠	欠	曇	曇	曇	曇	”	雨	75	”	一	曇
15	”	141	180	147	204	欠	155	118	123	曇	曇	112	”	雨	84	曇	108	曇
16	106	179	174	欠	257	142	60	曇	曇	曇	曇	159	”	曇	曇	曇	”	雨
17	曇	173	149	152	273	143	62	”	142	184	198	137	”	欠	176	77	172	129
18	雨	191	162	曇	一	曇	欠	”	曇	曇	曇	曇	”	123	欠	93	152	曇
19	曇	189	177	246	258	167	”	”	134	183	176	90	”	184	248	欠	一	150
20	”	雨	雨	雨	曇	”	”	”	雨	173	雨	雨	”	曇	曇	曇	115	雨
21	”	156	雨	曇	一	”	”	”	曇	曇	曇	曇	”	雨	雨	雨	”	曇
22	”	170	曇	欠	228	143	118	”	159	167	202	125	”	曇	232	97	143	167
23	172	雨	曇	曇	一	曇	曇	”	曇	曇	曇	曇	”	”	228	曇	一	欠
24	188	165	”	雨	曇	雨	曇	曇	雨	曇	雨	163	”	雨	雨	雨	142	雨
25	欠	159	”	215	214	”	曇	曇	曇	161	欠	144	”	152	198	欠	”	曇
26	152	雨	雨	曇	一	”	158	48	欠	雨	雨	曇	”	154	190	62	曇	”
27	87	曇	”	”	一	”	曇	雨	雨	曇	欠	欠	”	雨	雨	曇	”	雨
28	欠	77	曇	99	”	”	”	曇	曇	曇	”	”	”	”	雨	曇	61	曇
29	欠	70	”	96	一	66	”	曇	”	曇	”	”	”	”	雨	曇	”	83
30	曇	86	”	133	117	90	64	94	74	曇	93	”	”	曇	欠	曇	”	曇
31	”	曇	雨	曇	一	曇	曇	雨	曇	曇	一	”	”	95	曇	73	”	欠
日數	9	23	14	16	12	17	10	14	15	15	13	18	3	13	18	16	12	12
平均	—	113	135	133	176	93	68	106	86	118	116	103	—	111	105	49	108	86

●この月は先づ後藤一、三宅和夫、水谷後悔3氏の觀測結果を新に加へ得る事を共に喜びたい。

●清水氏の寫眞觀測の日はイタリック字體の10日。

●天候不良のため一般に觀測日數の少なかつた事は止むを得ぬ事乍ら、事情の許す限り毎月せめて15日以上に觀測日數を狙つて欲しい。